

科 目 名			病理学概論1		学 年	1 年
担 当 者					期 別	後期
単 位 数			1 単 位		講義 ・ 実習	講義
時間数・授業回数			30H・15回		専任 ・ 兼任	兼任
実務経験						
一般目標 (GIO)						
ヒトの体内でどのように細胞、組織、生理機能が障害されて疾患を起こしているかという基本原理をおもに組織の形態変化などから理解し、その知識を身につける。						
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)	
1	10	6	2	病理学とは？、疾病とは？	病理学の疾病分類を示し、ある疾患がどの分類に相当するかを説明する。	
2	10	13	2	組織の障害と修復1(適応:萎縮、肥大、過形成)	障害因子の強さに応じた様々な生体の反応を適応現象ととらえ、その具体例を説明する。	
3	10	20	2	組織の障害と修復2(変性、壊死)	障害因子の強さに応じた様々な生体の反応を適応現象ととらえ、その具体例を説明する。	
4	10	27	2	組織の障害と修復3(再生、化生、修復(創傷治癒、骨折治癒、異物処理、移植)	障害因子の強さに応じた様々な生体の反応を適応現象ととらえ、その具体例を説明する。	
5	11	10	2	代謝障害と疾病(痛風、黄疸、糖尿病)	代謝過程の異常を生化学的かつ生理学的に概説する。	
6	11	17	2	循環障害1(うっ血、出血)	用語の意味を再確認し、概略を説明する。	
7	11	24	2	循環障害2(血栓、塞栓、梗塞)	用語の意味を再確認し、概略を説明する。	
8	12	1	2	循環障害3(側副循環障害、高血圧、DIC、浮腫)	用語の意味を再確認し、概略を説明する。	
9	12	8	2	炎症(滲出性炎、増殖性炎)	炎症を大きく2つに捉えそれぞれの特徴を説明する。	
10	12	15	2	免疫異常・アレルギー1(免疫担当細胞、免疫応答)	免疫応答の概略を述べたうえで、アレルギーの4つの型を分類し、種々の膠原病の特徴を説明する。	
11	12	22	2	免疫異常・アレルギー2(アレルギー、自己免疫疾患)	免疫応答の概略を述べたうえで、アレルギーの4つの型を分類し、種々の膠原病の特徴を説明する。	
12	1	12	2	腫瘍1(悪性腫瘍の性質、転移)	悪性腫瘍の特徴を細胞レベル、組織レベルで列記し、転移の様式と具体例を説明する。	
13	1	19	2	腫瘍2(発生機構、診断、治療)	悪性腫瘍の特徴を細胞レベル、組織レベルで列記し、転移の様式と具体例を説明する。	
14	1	26	2	先天性異常(優性遺伝、劣性遺伝)	主要な優性遺伝、劣性遺伝による疾患及び染色体異常によるものを説明する。	
15	2	2	2	病因(内因、外因(物理学的、化学的、生物学的)	疾病とそこに至る最初のきっかけを説明する。	
評価基準				教科書		参考書
筆記試験		90%	病理学概論(改訂第3版)(柔道整復学校協会監修、南江堂)			よくわかる病理学の基本としくみ (田村著、秀和システム)
出席		10%				
		%				
		%				

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:40～12:10)

3限目(12:30～14:00)

科 目 名			病理学概論2		学 年	3 年
担 当 者					期 別	前期
単 位 数			1 単 位		講義 ・ 実習	講義
時間数・授業回数			30H・15回		専任 ・ 兼任	兼任
実務経験						
一般目標 (GIO)						
柔道整復師を目指す学生諸氏が、病理学の総論的内容を学習することにより、正常解剖学と生理学で学んだ人体の正常像との違いを理解して欲しい。また、国家試験に準拠した授業内容を構築したい。						
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)	
1	4	15	1	1.病理学 2.疾病 P.1～8	病理学的検査、疾病の概念を理解させる。	
2	4	22	1	3.細胞障害① P.9～28	退行性病変、代謝性病変を理解させる。	
3	5	6	1	3.細胞障害②	退行性病変、代謝性病変を理解させる。	
4	5	13	1	4.循環障害① P.29～48	血液の循環障害(充血、うっ血、出血、血栓、塞栓)	
5	5	20	1	4.循環障害②	リンパ液の循環障害、脱水症、高血圧症。	
6	5	27	1	5.進行性病変 P.49～60	病的増殖 と細胞・組織の適応を理解させる。	
7	6	3	1	1～6項の復習	細胞障害、循環障害、進行性病変について説明できる。	
8	6	10	1	6.炎症 P.61～70	炎症の一般的内容、形態学的変化、分類を理解させる。	
9	6	17	1	7.免疫異常/アレルギー P.71～84	免疫の仕組み、免疫不全、自己免疫疾患、アレルギー。	
10	6	24	1	8.腫瘍① P.85～112	腫瘍の概念、組織構造、発育諸段階を理解させる。	
11	7	1	1	8.腫瘍②	良性腫瘍、悪性腫瘍(癌)について理解させる。	
12	7	8	1	9.先天性異常 P.113～126	先天性異常(遺伝、染色体異常)、奇形を理解させる。	
13	7	15	1	10.病因① P.127～150	内因(遺伝、内分泌、免疫、ストレス)	
14	7	29	1	10.病因②	外因(栄養障害、物理・化学的要因、生物学的外因)	
15	8	5	1	付)運動器病理 P.151～166	整形外科の疾患別各論に掲載の疾患の概略を解説。	
評価基準				教科書		参考書
期末試験		100%	病理学概論 改定第3版 (医歯薬出版)			柔道整復師国家試験過去問題集
		%				
		%				
		%				

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:40～12:10)

3限目(12:30～14:00)

科 目 名			臨床医学総論1		学 年	1 年
担 当 者					期 別	前期
単 位 数			1 単 位		講義 ・ 実習	講義
時間数・授業回数			30H・15回		専任 ・ 兼任	兼任
実務経験			内科開業医師 内科開業医の立場より診察の基本について講義する。			
一般目標 (GIO)						
医療者としての心構えの大切さを知り、問診での聴き方及び身体診察(生命徴候観察、視診、触診、打診、聴診、感覚検査、反射検査)の仕方を学び、より正しい診断に近づく。						
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)	
1	4	12	3	診察概論	医療者の心構え等を述べる事ができる。	
2	4	19	3	医療面接	問診について説明できる。	
3	4	26	3	視診1	体格・姿勢と疾患の関係が説明できる。	
4	5	10	3	視診2	肥満・やせの基準及び意識状態が説明できる。	
5	5	17	3	視診3	異常運動が説明できる。	
6	5	24	3	視診4	異常歩行と疾患の関係が説明できる。	
7	5	31	3	視診5	皮膚病変や爪の変化について説明できる。	
8	6	7	3	視診6	頭部、顔面、頸部の視診が説明できる。	
9	6	14	3	視診7	胸部の変形や腹部の視診が説明できる。	
10	6	21	3	視診8	側彎や四肢の変形について説明できる。	
11	6	28	3	打診1	打診の方法、打診音の種類を説明できる。	
12	7	5	3	打診2	胸部、腹部の打診が説明できる。	
13	7	12	3	聴診	肺、心臓、腹部の聴診が説明できる。	
14	7	19	3	触診1	三叉神経痛や皮膚腫瘍を説明する事ができる。	
15	7	26	3	触診2	筋肉、骨、関節の触診を説明する事ができる。	
評価基準				教科書		参考書
筆記試験		100%		一般臨床医学 (全国柔道整復学校協会監修)		国家試験過去問題集 柔道整復師用 (医道の日本社発行)
		%				
		%				
		%				

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:30～14:00)

科 目 名			臨床医学総論2		学 年	1 年
担 当 者					期 別	後期
単 位 数			1 単 位		講義 ・ 実習	講義
時間数・授業回数			30H・15回		専任 ・ 兼任	兼任
実務経験			内科開業医の立場より診察の基本について講義する。			
一般目標 (GIO)						
医療者としての心構えの大切さを知り、問診での聴き方及び身体診察(生命徴候観察、視診、触診、打診、聴診、感覚検査、反射検査)の仕方を学び、より正しい診断に近づくことを目標とする。						
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)	
1	10	4	3	触診3	胸部、腹部などの触診を説明する事ができる。	
2	10	11	3	生命徴候1	体温について説明できる。	
3	10	18	3	生命徴候2	血圧、脈拍について説明できる。	
4	10	25	3	生命徴候3	呼吸について説明できる。	
5	11	1	3	感覚検査	表在・深部・複合感覚などを説明する事ができる。	
6	11	8	3	反射検査1	表在反射を説明する事ができる。	
7	11	15	3	反射検査2	腱反射を説明する事ができる。	
8	11	22	3	反射検査3	病的反射、自立神経反射などを説明する事ができる。	
9	11	29	3	代表的な臨床症状1	発熱について説明できる。	
10	12	6	3	代表的な臨床症状2	出血傾向、リンパ節腫脹について説明できる。	
11	12	13	3	代表的な臨床症状3	意識障害、チアノーゼについて説明できる。	
12	12	20	3	代表的な臨床症状4	関節痛をきたす疾患などの説明ができる。	
13	1	17	3	代表的な臨床症状5	浮腫について説明できる。	
14	1	24	3	代表的な臨床症状6	肥満・やせの病態生理を説明する事ができる。	
15	1	31	3	検査法	生理機能検査、検体検査を説明する事ができる。	
評価基準				教科書		参考書
筆記試験		100%		一般臨床医学 (全国柔道整復学校協会監修)		国家試験過去問題集 柔道整復師用 (医道の日本社発行)
		%				
		%				
		%				

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:30～14:00)

科 目 名			臨床医学各論1		学 年	2 年
担 当 者					期 別	前期
単 位 数			1単 位		講義 ・ 実習	講義
時間数・授業回数			30時間・15回		専任 ・ 兼任	兼任
実務経験			内科開業医の経験を踏まえて各疾患を講義する。			
一般目標(GIO)						
多くの疾患を幅広く学ぶことにより、患者に対してより適切な対処と指導ができるようになることを目標とする。						

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:30～14:00)

科 目 名			臨床医学各論2		学 年		2 年	
担 当 者					期 別		後期	
単 位 数			1単 位		講義 ・ 実習		講義	
時間数・授業回数			30時間・15回		専任 ・ 兼任		兼任	
実務経験			内科開業医の経験を踏まえて各疾患を講義する。					
一般目標(GIO)								
多くの疾患を幅広く学ぶことにより、患者に対してより適切な対処と指導ができるようになることを目標とする。								

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:30～14:00)

科 目 名			外科学概論1		学 年	2 年
担 当 者					期 別	後期
単 位 数			1 単 位		講義 ・ 実習	講義
時間数・授業回数			30H・15回		専任 ・ 兼任	兼任
実務経験			九州大学病院で30年の臨床経験			
一般目標 (GIO)						
外科学の基礎となる総論を理解し、日常臨床の場において遭遇することの多い代表的な外科疾患を知る。						
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)	
1	4	15	2	損傷①	損傷と創傷について説明できる。	
2	4	22	2	損傷②	熱傷の原因や深度による分類、合併症を述べる事ができる。	
3	5	6	2	炎症と外科感染症①	定義と分類について説明する。外科感染症について述べる事ができる。	
4	5	13	2	腫瘍①	概念および良性・悪性腫瘍の特徴について説明できる。	
5	5	20	2	腫瘍②	腫瘍の発育形式、診断方法、治療法について述べる事ができる。	
6	5	27	2	ショック①	定義と分類について説明する。またショックの緊急処置について述べる事ができる。	
7	6	3	2	輸血,輸液①	輸血の基礎知識を説明し、輸血の実際・副作用について述べる事ができる。	
8	6	10	2	輸血,輸液②	一般輸血について説明できる。	
9	6	17	2	消毒と滅菌①	消毒薬の特徴を説明し、滅菌の種類について述べる事ができる。	
10	6	24	2	手術①	各種手術法の種類および適用について述べる事ができる。	
11	7	1	2	麻酔①	麻酔の種類を説明し、それぞれの特徴を述べる事ができる。	
12	7	8	2	移植と免疫①	移植の用語と要点を述べる事ができる。	
13	7	15	2	出血と止血①	出血の種類と特徴を説明し止血法を理解する事ができる。	
14	7	29	2	心肺蘇生法①	心肺蘇生法の定義を説明し、手順を説明できる。	
15	8	5	2	外科学概論1まとめ	外科学概論の要点を述べる事ができる。	
評価基準				教科書		参考書
筆記試験		100%	全国柔道整復学校協会監修教科書外科学概論改訂第4版			
	%	(医歯薬出版)				
	%					
	%					

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:30～14:00)

科 目 名			外科学概論2		学 年	2 年
担 当 者					期 別	後期
単 位 数			1単 位		講義 ・ 実習	講義
時間数・授業回数			30時間・15回		専任 ・ 兼任	兼任
実務経験			九州大学病院で30年の臨床経験			
一般目標 (GIO)						
外科学の基礎となる総論を理解し、日常臨床の場において遭遇することの多い代表的な外科疾患を身につける。						
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)	
1	10	7	2	脳神経外科疾患①	脳神経疾患の主要徴候と病態を説明できる。	
2	10	14	2	脳神経外科疾患②	意識障害の分類について述べる事ができる。	
3	10	21	2	脳神経外科疾患③	脳血管障害および頭部外傷について説明する事ができる。	
4	10	28	2	甲状腺・頸部疾患①	甲状腺機能亢進症および甲状腺腫瘍について述べる事できる。	
5	11	4	2	胸壁・呼吸器疾患①	胸壁・呼吸器疾患の症候と検査について説明できる。	
6	11	11	2	胸壁・呼吸器疾患②	胸膜疾患・縦隔疾患等について説明できる。	
7	11	18	2	胸壁・呼吸器疾患③	胸部損傷について説明できる。	
8	11	25	2	心臓・脈管疾患①	心臓・血管系疾患に対する検査法を説明できる。	
9	12	2	2	心臓・脈管疾患②	心疾患の特徴について対比できる。	
10	12	9	2	心臓・脈管疾患③	脈管疾患について述べる事ができる。	
11	12	16	2	乳腺疾患①	診断方法について説明でき、乳腺疾患の種類を述べる事ができる。	
12	12	23	2	腹部外科疾患①	症状と検査について説明できる。	
13	1	13	2	腹部外科疾患②	代表的腹部外科疾患について述べる事ができる。	
14	1	20	2	腹部外科疾患③	腹部外傷について説明できる。	
15	1	27	2	外科学概論2まとめ	外科学概論の要点を述べる事ができる。	
評価基準				教科書		参考書
筆記試験		100%	全国柔道整復学校協会監修教科書外科学概論改訂第4版			
		%	(医歯薬出版)			
		%				
		%				

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:30～14:00)

科 目 名	リハビリテーション医学1	学 年	1 年
担 当 者		期 別	後期
単 位 数	1 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任
実務経験	一般病院のリハビリテーション科での勤務経験を有する者で、大学のリハビリテーション学科に勤務する教員が、リハビリテーション医学について講義する。		

一般目標 (GIO)

日本におけるリハビリテーション医学は戦後導入され、日本リハビリテーション医学会が設立されたのは昭和38年であり、まだ歴史の浅い医学である。本科目は、そのリハビリテーション医学を理解することが目標である。そのまず医学の概略を理解し、その後、リハビリテーションにおける評価と診断および治療に関する知識を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	6	3	リハビリテーションの概念	リハビリテーションの概念と歴史について説明できる。
2	10	13	3	リハビリテーションの対象と障害者の実態(1)	医学的リハビリテーションについて説明する。
3	10	20	3	リハビリテーションの対象と障害者の実態(2)	リハビリテーション医学について説明する。
4	10	27	3	障害の階層とアプローチ	ICFとICIDHについて説明する。
5	11	10	3	リハビリテーション評価学(1)	運動学と機能解剖について説明する。
6	11	17	3	リハビリテーション評価学(2)	各評価項目について説明する。
7	11	24	3	リハビリテーション評価学(3)	各評価項目について説明する。
8	12	1	3	リハビリテーション評価学(4)	各評価項目について説明する。
9	12	8	3	リハビリテーション障害学と治療学(1)	リハビリテーション障害学について説明する。
10	12	15	3	リハビリテーション障害学と治療学(2)	リハビリテーション障害学について説明する。
11	12	22	3	リハビリテーション障害学と治療学(3)	リハビリテーション治療学について説明する。
12	1	12	3	リハビリテーション障害学と治療学(4)	リハビリテーション治療学について説明する。
13	1	19	3	リハビリテーション医学の関連職種	リハビリテーション医学の関連職種について説明する
14	1	26	3	リハビリテーション治療技術	理学療法について説明する
15	2	2	3	リハビリテーション治療技術	作業療法・言語聴覚療法について説明する
評価基準				教科書	参考書
筆記試験	100%	リハビリテーション医学(全国柔道整復学校協会監修)			
	%				
	%				
	%				

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:30～14:00)

科 目 名			リハビリテーション医学2		学 年	2 年
担 当 者					期 別	前期
単 位 数			1 単 位		講義 ・ 実習	講義
時間数・授業回数			30H・15回		専任 ・ 兼任	兼任
実務経験			一般病院のリハビリテーション科での勤務経験を有する者で大学のリハビリテーション学科に勤務する教員が、リハビリテーション医学について講義する。			
一般目標 (GIO)						
日本におけるリハビリテーション医学は戦後導入され、日本リハビリテーション医学会が設立されたのは昭和38年であり、まだ歴史の浅い医学である。本科目は、そのリハビリテーション医学を理解することが目標である。そのため、まず医学の概略を理解し、その後、リハビリテーションにおける評価と診断および治療に関する知識を修得する。						
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)	
1	6	16	3	リハビリテーション治療技術	補装具について説明する。	
2		16	4	リハビリテーション治療技術	補装具について説明する。	
3	6	23	3	高齢者のリハビリテーション(1)	平均寿命と健康寿命について説明する。	
4		23	4	高齢者のリハビリテーション(2)	フレイルについて説明する。	
5	6	30	3	高齢者のリハビリテーション(3)	パーキンソン病について説明する。	
6		30	4	運動器のリハビリテーション(1)	骨折について説明する。	
7	7	7	3	運動器のリハビリテーション(2)	捻挫について説明する。	
8		7	4	運動器のリハビリテーション(3)	上肢損傷について説明する。	
9	7	14	3	運動器のリハビリテーション(4)	下肢損傷について説明する。	
10		14	4	運動器のリハビリテーション(5)	頸肩腕症候群について説明する。	
11	7	21	3	運動器のリハビリテーション(6)	腰痛について説明する。	
12		21	4	リハビリテーションと福祉	社会福祉・介護保険について説明する。	
13	7	28	3	障害者スポーツ	障害者スポーツの概要について説明する。	
14		28	4	障害者スポーツ	障害者スポーツについて説明する。	
15	8	4	3	まとめ		
評価基準				教科書		参考書
筆記試験		100%	リハビリテーション医学(全国柔道整復学校協会監修)			
		%				
		%				
		%				

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:30～14:00)

科 目 名		リハビリテーション医学3		学 年	3 年
担 当 者				期 別	前期
単 位 数		1 単 位		講義 ・ 実習	講義
時間数・授業回数		30時間 15回		専任 ・ 兼任	専任
実務経験		臨床経験を持つ教員が実際に境遇する高齢者の疾病と障害に関する講義を行う。			
一般目標 (GIO)					
リハビリテーション医学3において、疾病と障害の基本を理解し、出くわす傷病に対して適切な判断ができるようになる。					
本科目は高齢者の運動機能の維持・回復に対する治療の基礎となることを認識し習得する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	14	1	フレイル(加齢と老化について)	フレイルの概要を理解する。
2	4	21	1	ロコモティブシンドローム	ロコモティブシンドロームの説明ができる。
3	4	28	1	サルコペニア	サルコペニアの説明ができる。
4	5	12	1	高齢者をとりまく医療制度	高齢者の医療制度を理解する。
5	5	19	1	包括支払い制度	日常生活自立判定基準が説明できる。
6	5	26	1	医療保険の算定制限	医療保険を理解する。
7	6	2	1	認知症	認知症の種類を説明できる。
8	6	9	1	高齢者虐待	高齢者虐待の概要を知る。
9	6	16	1	要介護状態の予防	要介護状態の予防を知る。
10	6	23	1	地域リハビリテーション	地域包括ケアシステムを理解する。
11	6	30	1	パーキンソン病のリハビリ	パーキンソン病を理解する。
12	7	7	1	脳卒中の概要	脳卒中の概要を理解する。
13	7	14	1	脳卒中の障害	脳卒中の障害について理解する。
14	7	21	1	脳卒中のリハビリ	脳卒中のリハビリを理解する。
15	7	28	1	まとめ	期末試験に向け、履修内容を整理する。
評価基準			教科書		参考書
期末テスト	100%		リハビリテーション医学 第4版		
実習態度	%				
	%				
	%				

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:35～11:20)

3限目 (11:25～12:55)

科 目 名			整形外科学		学 年	2 年
担 当 者					期 別	前期
単 位 数			1 単位		講義 ・ 実習	講義
時間数・授業回数			30時間 15回		専任 ・ 兼任	兼任
実務経験			臨床整形外科医として医療の第一線を担う教員が患者の受診時状況やその疾患と外科領域での現状や課題について解説する。整形			
一般目標 (GIO)						
整形外科において臨床疾患を知識として修得する。						
運動器疾患についての診察法や検査法を深く理解する。						
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)	
1	4	15	1	運動器の基礎知識、診察法	運動機器の役割・診察法を説明する	
2	4	22	1	整形外科学 検査法	適切な検査法を説明する	
3	5	6	1	整形外科学 治療法	診察法、検査法から治療を関係づける	
4	5	13	1	骨・関節損傷 総論 リハビリ総論 スポーツ整形外科 総論	骨折、関節損傷、スポーツ外傷について分類する	
5	5	20	1	疾患別 各論①	感染性、非感染性について説明する	
6	5	27	1	疾患別 各論②	感染性、非感染性について説明する	
7	6	3	1	疾患別 各論③	全身の骨、軟部疾患について説明する	
8	6	10	1	疾患別 各論④	全身の骨、軟部疾患について説明する	
9	6	17	1	疾患別 各論⑤	神経麻痺、絞扼性神経障害の説明をする	
10	6	24	1	身体別 各論①	体幹について説明をする	
11	7	1	1	身体別 各論②	肩甲骨及び上肢の疾患を説明する	
12	7	8	1	身体別 各論③	肩甲骨及び上肢の疾患を説明する	
13	7	15	1	身体別 各論④	骨盤及び下肢の疾患を説明する	
14	7	29	1	身体別 各論⑤	骨盤及び下肢の疾患を説明する	
15	8	5	1	まとめ	講義全体について復習し総括する	
評価基準			教科書			参考書
期末テスト		100%	整形外科学 改訂第4版 南江堂			
		%				
		%				
		%				

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:30～14:00)

科 目 名			衛生学・公衆衛生学		学 年	1 年
担 当 者					期 別	前期
単 位 数			1単 位		講義 ・ 実習	講義
時間数・授業回数			30時間・15回		専任 ・ 兼任	兼任
実務経験			歯科大学教授を歴任し、行政と協働して公衆衛生活動を行ってきた。			
一般目標 (GIO)						
衛生学・公衆衛生学では、人の健康を左右する要因を理解し、人々の健康の保持、増進を図るために、これらの要因に対して科学的根拠のある対策を行うことを修得する。また、疾病予防や健康増進に寄与するよう衛生・公衆衛生の基本的な知識を身につける。						
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)	
1	4	16	2	衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動、他	衛生学・公衆衛生学の歴史・活動を説明できる。	
2	4	23	2	健康の概念、人口統計、他	健康を説明できる。人口の推移を比較し、現状を説明できる。	
3	5	7	2	疾病予防と健康管理-疾病の自然史、予防の段階、生活習慣病、集団検診	疾病予防と健康管理について説明できる。	
4	5	14	2	感染症の予防:感染症の定義、種類、予防、対策、予防接種	感染症成立の要件を分類し、予防法を説明できる。主な感染症の動向を評価できる。	
5	5	21	2	消毒の意義、分類、消毒法等	感染源に対する消毒を説明でき、院内感染への関わり方を述べる事ができる。	
6	5	28	2	環境問題、物理的・化学的・生物的環境要因、空気、公害	環境とヒトの健康の関係を述べ、環境問題対策を説明できる。	
7	6	4	2	食品衛生等	食品衛生を説明する事ができ、栄養と健康を関係づける事ができる。	
8	6	11	2	模擬試験 1	7 回目までの講義内容の理解度を整理する。	
9	6	18	2	母子保健:指標、小児保健、行政、対策 学校保健:領域と構成、学校保健管理、保健教育	母子保健・学校保健の目的と枠組が説明でき、年齢に応じた保健対策を述べる事ができる。	
10	6	25	2	産業保健:目的、労働災害、作業条件による健康障害	産業保健の目的と枠組が説明でき、柔道整復師としての関わり方を述べる事ができる。	
11	7	2	2	成人・老人保健、生活習慣病 精神保健:精神の病気、精神保健活動 地域保健と国際保健:地域保健活動、福祉対策、国際協力、WHO	成人・老人保健の目的と枠組が説明でき、柔道整復師としての関わり方を述べる事ができる。精神保健問題を指摘し、その対策を説明する事ができる。地域保健・国際保健を説明し、進め方を述べる事ができる。	
12	7	9	2	衛生行政と保健医療の制度: 組織、医療施設、医療保険、公費負担医療他	衛生行政と保健医療の制度を説明する事ができる。	
13	7	16	2	医療の倫理と安全確保:問題と倫理、医療の安全の確保	医療の倫理と安全確保について柔道整復師としての関わり方を述べる事ができる。	
14	7	30	2	疫学:病因論、疫学調査、調査の実施と結果分析、結果の解釈、統計手法	疫学を説明し、疫学の手法を分類し、評価する事ができる。	
15	8	6	2	模擬試験2	9～14 回目までの講義内容について理解度を整理する。	
評価基準				教科書		参考書
筆記試験		80%		南江堂 衛生学・公衆衛生学		厚生労働白書等、その他配付資料
レポート等		10%				
受講態度		10%				
		%				

科 目 名			衛生学・公衆衛生学2		学 年	3 年
担 当 者					期 別	前期
単 位 数			1 単 位		講義 ・ 実習	講義
時間数・授業回数			30時間・15回		専任 ・ 兼任	兼任
実務経験			歯科大学教授を歴任し、行政と協働して公衆衛生活動を行ってきた。			
一般目標 (GIO)						
衛生学・公衆衛生学では、人の健康を左右する要因を理解し、人々の健康の保持、増進を図るために、これらの要因に対して科学的根拠のある対策を行うことを修得する。また、疾病予防や健康増進に寄与するよう衛生・公衆衛生の基本的な知識を身につける。						
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)	
1	4	16	3	衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動、他	衛生学・公衆衛生学の歴史・活動を説明できる。	
2	4	23	3	健康の概念、人口統計、他	健康を説明する事ができ、人口の推移を比較し、現状を解説する事ができる。	
3	5	7	3	疾病予防と健康管理-疾病の自然史、予防の段階、生活習慣病、集団検診	疾病予防と健康管理について説明する事ができる。	
4	5	14	3	感染症の予防:感染症の定義、種類、予防、対策、予防接種	感染症成立の要件を分類し、予防法を説明する事ができる。主な感染症の動向が評価できる。	
5	5	21	3	消毒の意義、分類、消毒法等	感染源に対する消毒が説明でき、院内感染への関わり方を述べる事ができる。	
6	5	28	3	環境問題、物理的・化学的・生物的環境要因、空気、公害	環境とヒトの健康の関係を述べ、環境問題対策を説明する事ができる。	
7	6	4	3	食品衛生等	食品衛生が説明でき、栄養と健康を関係づける事ができる。	
8	6	11	3	模擬試験 1	7回目までの講義内容の理解度を整理する。	
9	6	18	3	母子保健:指標、小児保健、行政、対策 学校保健:領域と構成、学校保健管理、保健教育	母子保健・学校保健の目的と枠組が説明でき、年齢に応じた保健対策を述べる事ができる。	
10	6	25	3	産業保健:目的、労働災害、作業条件による健康障害	産業保健の目的と枠組が説明でき、柔道整復師としての関わり方を述べる事ができる。	
11	7	2	3	成人・老人保健、生活習慣病 精神保健:精神の病気、精神保健活動 地域保健と国際保健:地域保健活動、福祉対策、国際協力、WHO	を述べる事ができる。 精神保健問題を指摘し、その対策を解説する事ができる。地域保健・国際保健を説明し、進め方を述べる事ができる。	
12	7	9	3	衛生行政と保健医療の制度: 組織、医療施設、医療保険、公費負担医療他	衛生行政と保健医療の制度を説明する事ができる。	
13	7	16	3	医療の倫理と安全確保:問題と倫理、医療の安全の確保	医療の倫理と安全確保について柔道整復師としての関わり方を述べる事ができる。	
14	7	30	3	疫学:病因論、疫学調査、調査の実施と結果分析、結果の解釈、統計手法	疫学を説明し、疫学の手法を分類し、評価できる。	
15	8	6	3	模擬試験2	9～14回目までの講義内容について理解度を整理する。	
評価基準				教科書		参考書
筆記試験		80%		南江堂 衛生学・公衆衛生学		厚生労働白書等、その他配付資料
レポート等		10%				
受講態度		10%				
		%				

科 目 名			医学史1		学 年	2 年
担 当 者					期 別	前期
単 位 数			1 単 位		講義 ・ 実習	講義
時間数・授業回数			30H・15回		専任 ・ 兼任	兼任
実務経験			実務経験:整形外科勤務6年 教員歴:専任教員5年			
一般目標(GIO)						
柔道整復師の養成課程において、柔道の理念を理解し、 また、行動に移すための素地を技の習得過程を通して身につける。						
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)	
1	4	16	2	柔道の歴史及び柔道衣の着用方法と礼法、受け身	柔道衣を一人で着ることができる。柔道の創設経緯について理解する。後受身、横受身、前受身、前方回転受身ができる。	
2	4	23	2	柔道の歴史及び柔道衣の着用方法と礼法、受け身	柔道衣を一人で着ることができる。柔道の創設経緯について理解する。後受身、横受身、前受身、前方回転受身ができる。	
3	5	7	2	姿勢・組み方、歩み方 崩しと体さばき	自然体から継足と歩足を使って移動できる。 歩みと体さばきを巧みに使い、相手の体勢を崩すことができる。	
4	5	14	2	姿勢・組み方、歩み方 崩しと体さばき	自然体から継足と歩足を使って移動できる。 歩みと体さばきを巧みに使い、相手の体勢を崩すことができる。	
5	5	21	2	足技と足技に対する受身 -導入-	受の姿勢が低い状況で、支釣込足で投げるができる。 支釣込足に対して、受身を取ることができる。	
6	5	28	2	足技と足技に対する受身 -導入-	受の姿勢が低い状況で、支釣込足で投げるができる。 支釣込足に対して、受身を取ることができる。	
7	6	4	2	足技と足技に対する受身 -発展-	体さばきを巧みに使い、支釣込足で投げるができる。 支釣込足に対して、受身を取ることができる。	
8	6	11	2	足技と足技に対する受身 -発展-	体さばきを巧みに使い、支釣込足で投げるができる。 支釣込足に対して、受身を取ることができる。	
9	6	18	2	足技と足技に対する受身 -発展-	体さばきを巧みに使い、支釣込足で投げるができる。 支釣込足に対して、受身を取ることができる。	
10	6	25	2	足技と足技に対する受身 -応用-	歩みと体さばきを巧みに使い、支釣込足で投げるができる。 支釣込足に対して、受身を取ることができる。	
11	7	2	2	足技と足技に対する受身 -応用-	歩みと体さばきを巧みに使い、支釣込足で投げるができる。 支釣込足に対して、受身を取ることができる。	
12	7	9	2	足技と足技に対する受身 -応用-	歩みと体さばきを巧みに使い、支釣込足で投げるができる。 支釣込足に対して、受身を取ることができる。	
13	7	16	2	腰技と腰技に対する受身 -導入-	体さばきを巧みに使い、大腰で投げるができる。 大腰に対して、受身を取ることができる。	
14	7	30	2	腰技と腰技に対する受身 -導入-	体さばきを巧みに使い、大腰で投げるができる。 大腰に対して、受身を取ることができる。	
15	8	6	2	腰技と腰技に対する受身 -導入-	体さばきを巧みに使い、大腰で投げるができる。 大腰に対して、受身を取ることができる。	
評価基準				教科書		参考書
試験		100%				
		%				
		%				
		%				

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:30～14:00)

科 目 名			医学史2		学 年	2 年	
担 当 者					期 別	後期	
単 位 数			1 単 位		講義 ・ 実習	講義	
時間数・授業回数			30H・15回		専任 ・ 兼任	兼任	
実務経験			実務経験:整形外科勤務6年 教員歴:専任教員5年				
一般目標(GIO)							
柔道整復師の養成課程において、柔道の理念を理解し、 また、行動に移すための素地を技の習得過程を通して身につける。							
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)		
1	10	1	1	腰技と腰技に対する受身 -発展-	体さばきを巧みに使い、釣込腰で投げることができる。 釣込腰に対して、受身を取ることができる。		
2	10	8	1	腰技と腰技に対する受身 -発展-	体さばきを巧みに使い、釣込腰で投げることができる。 釣込腰に対して、受身を取ることができる。		
3	10	15	1	腰技と腰技に対する受身 -応用-	歩みと体さばきを巧みに使い、釣込腰で投げることができる。 釣込腰に対して、受身を取ることができる。		
4	10	22	1	腰技と腰技に対する受身 -応用-	歩みと体さばきを巧みに使い、釣込腰で投げることができる。 釣込腰に対して、受身を取ることができる。		
5	10	29	1	手技と手技に対する受身 -導入-	体さばきを巧みに使い、背負投で投げることができる。 背負投に対して、受身を取ることができる。		
6	11	5	1	手技と手技に対する受身 -導入-	体さばきを巧みに使い、背負投で投げることができる。 背負投に対して、受身を取ることができる。		
7	11	12	1	手技と手技に対する受身 -発展-	体さばきと歩みを巧みに使い、背負投で投げることができる。 背負投に対して、受身を取ることができる。		
8	11	19	1	手技と手技に対する受身 -発展-	体さばきと歩みを巧みに使い、背負投で投げることができる。 背負投に対して、受身を取ることができる。		
9	11	26	1	足技と足技に対する受身 -発展-	体さばきを巧みに使い、支釣込足で投げることができる。 支釣込足に対して、受身を取ることができる。		
10	12	3	1	手技と手技に対する受身 -応用-	相手の動作に応じて、背負投で投げることができる。 背負投に対して、受身を取ることができる。		
11	12	10	1	手技と手技に対する受身 -応用-	相手の動作に応じて、背負投で投げることができる。 背負投に対して、受身を取ることができる。		
12	12	17	1	足技、腰技、手技の復習	支釣込足、釣込腰、背負投で投げることができる。 支釣込足、釣込腰、背負投に対して、受身を取ることができる。		
13	12	24	1	足技、腰技、手技の復習	支釣込足、釣込腰、背負投で投げることができる。 支釣込足、釣込腰、背負投に対して、受身を取ることができる。		
14	1	14	1	約束乱取	動きの中から支釣込足、釣込腰、背負投、大腰を用いて相手を投げる事ができる。		
15	1	21	1	約束乱取	動きの中から支釣込足、釣込腰、背負投、大腰を用いて相手を投げる事ができる。		
評価基準				教科書			参考書
試験		100%					
		%					
		%					
		%					

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:30～14:00)

科 目 名			医学史3		学 年	3 年	
担 当 者					期 別	前期	
単 位 数			1 単 位		講義 ・ 実習	講義	
時間数・授業回数			30H・15回		専任 ・ 兼任	兼任	
実務経験			実務経験:整形外科勤務6年 教員歴:専任教員5年				
一般目標(GIO)							
柔道整復師の養成課程において、柔道の理念を理解し、 また、行動に移すための素地を技の習得過程を通して身につける。							
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)		
1	4	16	1	腰技と腰技に対する受身 -発展-	体さばきを巧みに使い、釣込腰で投げることができる。 釣込腰に対して、受身を取ることができる。		
2	4	23	1	腰技と腰技に対する受身 -発展-	体さばきを巧みに使い、釣込腰で投げることができる。 釣込腰に対して、受身を取ることができる。		
3	5	7	1	腰技と腰技に対する受身 -応用-	歩みと体さばきを巧みに使い、釣込腰で投げることができる。 釣込腰に対して、受身を取ることができる。		
4	5	14	1	腰技と腰技に対する受身 -応用-	歩みと体さばきを巧みに使い、釣込腰で投げることができる。 釣込腰に対して、受身を取ることができる。		
5	5	21	1	手技と手技に対する受身 -導入-	体さばきを巧みに使い、背負投で投げることができる。 背負投に対して、受身を取ることができる。		
6	5	28	1	手技と手技に対する受身 -導入-	体さばきを巧みに使い、背負投で投げることができる。 背負投に対して、受身を取ることができる。		
7	6	4	1	手技と手技に対する受身 -発展-	体さばきと歩みを巧みに使い、背負投で投げることができる。 背負投に対して、受身を取ることができる。		
8	6	11	1	手技と手技に対する受身 -発展-	体さばきと歩みを巧みに使い、背負投で投げることができる。 背負投に対して、受身を取ることができる。		
9	6	18	1	足技と足技に対する受身 -発展-	体さばきを巧みに使い、支釣込足で投げることができる。 支釣込足に対して、受身を取ることができる。		
10	6	25	1	手技と手技に対する受身 -応用-	相手の動作に応じて、背負投で投げることができる。 背負投に対して、受身を取ることができる。		
11	7	2	1	手技と手技に対する受身 -応用-	相手の動作に応じて、背負投で投げることができる。 背負投に対して、受身を取ることができる。		
12	7	9	1	足技、腰技、手技の復習	支釣込足、釣込腰、背負投で投げる事ができる。 支釣込足、釣込腰、背負投に対して、受身を取ることができる。		
13	7	16	1	足技、腰技、手技の復習	支釣込足、釣込腰、背負投で投げる事ができる。 支釣込足、釣込腰、背負投に対して、受身を取ることができる。		
14	7	30	1	約束乱取	動きの中から支釣込足、釣込腰、背負投、大腰を用いて相手を投げる事ができる。		
15	8	6	1	約束乱取	動きの中から支釣込足、釣込腰、背負投、大腰を用いて相手を投げる事ができる。		
評価基準				教科書			参考書
試験		100%					
		%					
		%					
		%					

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:30～14:00)

科 目 名			関係法規1		学 年	1 年
担 当 者					期 別	後期
単 位 数			1単 位		講義 ・ 実習	講義
時間数・授業回数			30時間・15回		専任 ・ 兼任	専任
実務経験			柔道整復師免許取得17年、専任教員9年			
一般目標 (GIO)						
臨床現場において良質な医療の提供を実施するために、本科目では柔道整復師の業務に必要な法の基礎や 柔道整復師法、その他医療に関わる法を修得する。						
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)	
1	10	5	1	法の意義、体系	法の基礎を説明できる。	
2	10	12	1	柔道整復師と患者の権利、リスク マネジメント	インフォームドコンセントやリスクマネジメントについて説明 できる。	
3	10	19	1	柔道整復師法(総則、免許)	目的、定義、要件が説明できる。	
4	10	26	1	柔道整復師法(免許、国家試験)	免許申請、免許交付、国家試験の内容について説明でき る。	
5	11	2	1	柔道整復師法(業務)	業務の禁止、業務範囲について説明できる。	
6	11	9	1	柔道整復師法(施術所)	施術所の届出、設備基準について説明できる。	
7	11	16	1	柔道整復師法(雑則、罰則)	広告の制限、罰則に関わる内容について説明できる。	
8	11	30	1	医療従事者の資格法①	医師法、歯科医師法について説明できる。	
9	12	7	1	医療従事者の資格法②	その他の医療従事者の資格法について説明できる。	
10	12	14	1	医療法①	目的、理念、定義が説明できる。	
11	12	21	1	医療法②	医療機関の開設、休止等の要件、情報提供等について説 明できる。	
12	1	11	1	社会福祉法関係法規	社会福祉法、身体障害者福祉法の概要を説明できる。	
13	1	18	1	社会保険関係法規①	健康保険法と国民健康保険について説明できる。	
14	1	25	1	社会保険関係法規②	介護保険法について説明できる。	
15	2	1	1	その他の関係法規	個人情報保護に関する法律について説明できる。	
評価基準				教科書		参考書
筆記試験		100%	関係法規 2019年版			
		%				
		%				
		%				

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:40～12:10)

3限目(12:30～14:00)

科 目 名			関係法規2		学 年	3 年
担 当 者					期 別	前期
単 位 数			1単 位		講義 ・ 実習	講義
時間数・授業回数			30時間・15回		専任 ・ 兼任	専任
実務経験			柔道整復師免許取得17年、専任教員9年			
一般目標 (GIO)						
臨床現場において良質な医療の提供を実施するために、本科目では柔道整復師の業務に必要な法の基礎や 柔道整復師法、その他医療に関わる法を修得する。 また、1年時に習得した知識の確認及び国家試験にも対応できるように修得する。						
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)	
1	4	16	2	法の意義、体系	法の基礎を説明できる。	
2	4	23	2	柔道整復師と患者の権利、リスク マネジメント	インフォームドコンセントやリスクマネジメントについて説明 できる。	
3	5	7	2	柔道整復師法(総則、免許)	目的、定義、要件が説明できる。	
4	5	14	2	柔道整復師法(免許、国家試験)	免許申請、免許交付、国家試験の内容について説明でき る。	
5	5	21	2	柔道整復師法(業務)	業務の禁止、業務範囲について説明できる。	
6	5	28	2	柔道整復師法(施術所)	施術所の届出、設備基準について説明できる。	
7	6	4	2	柔道整復師法(雑則、罰則)	広告の制限、罰則に関わる内容について説明できる。	
8	6	11	2	医療従事者の資格法①	医師法、歯科医師法について説明できる。	
9	6	18	2	医療従事者の資格法②	その他の医療従事者の資格法について説明できる。	
10	6	25	2	医療法①	目的、理念、定義が説明できる。	
11	7	2	2	医療法②	医療機関の開設、休止等の要件、情報提供等について説 明できる。	
12	7	9	2	社会福祉法関係法規	社会福祉法、身体障害者福祉法の概要を説明できる。	
13	7	16	2	社会保険関係法規①	健康保険法と国民健康保険について説明できる。	
14	7	30	2	社会保険関係法規②	介護保険法について説明できる。	
15	8	6	2	その他の関係法規	個人情報保護に関する法律について説明できる。	
評価基準				教科書		参考書
筆記試験			100%	関係法規 2019年版		
			%			
			%			
			%			

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:40～12:10)

3限目(12:30～14:00)

科 目 名			職業倫理		学 年	1 年
担 当 者					期 別	後期
単 位 数			1 単 位		講義 ・ 実習	講義
時間数・授業回数			15時間 7回		専任 ・ 兼任	専任
実務経験			臨床経験を持つ教員が社会生活上の守るべく規範や職業倫理について解説する。			
一般目標 (GIO)						
本科目は、社会的モラル、マナー、ルール上に存在すると考えられ、それらを含む倫理の概念を理解し社会的責任や役割を果たすために必要とされる行動の規範や基準を身につける。						
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)	
1	10	1	2	医療従事者の職業倫理	倫理そのものが示す意味から説明できる。	
2	10	8	2	基本的倫理観と患者対応	インフォームドアセントを含め説明できる。	
3	10	15	2	柔道整復師の社会的責任	医療事故の対応について詳しく説明できる。	
4	10	22	2	グループディスカッション	事例別に分類できる。	
5	10	29	2	医療における情報と責任	カルテ等の情報管理について説明できる。	
6	11	5	2	職業倫理資料について	難しい言葉等を理解できるように説明できる。	
7	11	12	2	個人情報について	個人情報、要配慮個人情報を分けて説明できる。	
8	11	19	2	1～6項の復習・確認	講義内容を再認識したか確認し学生同士で評価する。	
評価基準				教科書		参考書
期末テスト		100%		社会保障制度と柔道整復師の職業倫理		
		%				
		%				
		%				

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:30～14:00)

科 目 名		柔道整復の適応		学 年	3 年
担 当 者				期 別	後期
単 位 数		2 単 位		講義 ・ 実習	講義
時間数・授業回数		30H・15回		専任 ・ 兼任	専任
実務経験		歯科医師他			
一般目標 (GIO)					
柔道整復術適応現場において、緊急搬送を要するものとそうでないものを区別できる能力を身に付け、 損傷者・罹患者に対して適切な対応ができる能力を身に付ける。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	6	2	柔道整復術の適否	適応と不適の境界を説明できる。
2		13	2	損傷に類似した疾患①	内臓疾患を疑う疼痛について説明できる。
3		20	2	損傷に類似した疾患②	腰痛を伴う疾患について説明できる。
4		27	2	損傷に類似した疾患③	化膿性炎症・軟部組織の圧迫損傷について理解する。
5	11	10	2	血流障害を伴う損傷	臨床現場において想定されうる症例を説明できる。
6		17	2	末梢神経損傷を伴う損傷	臨床現場において想定されうる症例を説明できる。
7		24	2	脱臼骨折	部位別に分類しそれぞれに対応できる。
8		1	2	外出血を伴う損傷	柔道整復術の観点から損傷を理解し説明できる。
9	12	8	2	病的骨折・脱臼	基礎疾患についての知識も備え対応できる。
10		15	2	意識障害を伴う損傷	救急対応時の立ち回りを含め説明できる。
11		22	2	脊髄症状のある損傷	部位別に分類しそれぞれを説明できる。
12		12	2	呼吸運動障害を伴う損傷	胸部外傷の柔道整復術適応の境界を説明できる。
13	1	19	2	内臓損傷の合併が疑われる損傷	脱臼・骨折に分けて画像を用いて説明できる。
14		26	2	高エネルギー外傷	随伴した症状・合併症に対応する能力を修得する。
15		2	2	総復習	1～14項を理解し説明できる。
評価基準			教科書		参考書
期末試験	100%		医療の中の柔道整復(南江堂)		柔道整復師国家試験問題 (公益財団法人柔道整復研修試験財団ホームページ)
	%				
	%				
	%				

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:30～14:00)

科 目 名		社会保障制度		学 年		1 年	
担 当 者				期 別		後期	
単 位 数		1 単 位		講義 ・ 実習		講義	
時間数・授業回数		15時間 8回		専任 ・ 兼任		専任	
実務経験		臨床経験を持つ教員が整骨院・接骨院の運営上、知っておくべき社会保障制度や療養費の計算方式などを分かりやすく解説する。					
一般目標 (GIO)							
本科目は、整骨院・接骨院の運営上の必要知識であるため、解釈を間違わないように理解する。							
また、療養費支給基準などの説明も含め不正の意味を理解し判断する能力を身につける。							
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)		
1	11	19	2	社会保障と社会保障制度	1つ1つの単語の意味を説明できる。		
2		26	2	医療保険制度	体制・制度について詳しく説明できる。		
3	12	3	2	柔道整復師における療養費①	療養費・柔道整復療養費について説明できる。		
4		10	2	柔道整復師における療養費②	柔道整復療養費の推移について推論できる。		
5		17	2	柔道整復師における療養費③	療養費の算定方法について説明できる。		
6		24	2	ケーススタディ①	療養費請求について説明できる。		
7	1	14	2	ケーススタディ②	不正となる事例を説明できる。		
8		21	2	1～8項の復習・確認	期末テストについて説明できる。		
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
評価基準				教科書		参考書	
期末テスト		100%		社会保障制度と柔道整復師の職業倫理			
		%					
		%					
		%					

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:30～14:00)